



東京湾再生官民連携フォーラム 平成 28 年度 第 1 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 28 年 5 月 17 日 16:00~18:00
2. 開催場所 スタндарт会議室 虎ノ門ヒルズフロント店 小ホール
所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-22-14 ミツヤ虎ノ門ビル 5F

3. 議事次第

《審議事項》

- (1) 平成 27 年度事業報告 (案)、決算 (案) 及び監査について
- (2) 平成 28 年度事業計画、予算 (案) について
- (3) フォーラム法人化の検討について

《報告事項》

- (1) セブン-イレブン記念財団との協定締結について
- (2) CSR-NPO未来交流会 (マッチング交流会) について
- (3) 東京湾イベントカレンダーについて
- (4) 平成 28 年度 P T 活動状況
- (5) その他

4. 出席者

來生委員長、中村委員、古川委員、岡田委員、中井委員、工藤委員、小野代理、鈴木 (康) 委員、田久保委員、木村委員、竹口委員、田中代理、芝原委員、松坂代理、岩井代理、佐々木 (宏) 委員、佐藤代理、米村代理、儀間委員、川村代理、大野代理、笹委員、小池代理、鈴木 (健) 委員、小山代理、細川、(事務局)

5. 議事メモ

5-1 開会

■事務局確認事項

- ・配布資料の確認
- ・出欠確認

(1) 開会挨拶 (委員長)

- ・雨で足元の悪い中、ご参集頂きみなさまありがとうございます。本年の第 1 回委員会。あらたにフォーラムの法人化も議題に上がっています。

5-2 議事

《審議事項》

- (1) 平成 27 年度事業報告 (案)、決算 (案) 及び監査について

【決定事項】



平成 27 年度事業報告（案）、決算（案）及び監査については、提案の通り承認された。

（事務局説明）

<資料 1-1 H27d 事業報告（案）>

- ・平成 27 年度事業報告については、主に H27d 第 4 回企画運営委員会で提示した資料に、第 4 回企画運営委員会以降の実施事項について加筆。

<資料 1-2-1 H27d 決算（案）>

- ・収入の部では、赤城乳業からの寄付、セブン-イレブン記念財団からの助成があった。
- ・支出の部では、事務局経費はある程度の見当が付き、ほぼ予定通りの経費。その中でも、予算に対して支出は節約の努力をしている。
- ・未払金に関しては 4 月にすべて支払い、キャッシュフローとしては、ぎりぎりであるが滞りなく処理できた。

<監査について>

以上の整理につき、風呂田幹事、大浦幹事に監査していただいた。

監事のご指摘を事業報告・決算への指摘事項として紹介する。

<主な指摘事項>

- ・経理費目は、例えば、東京湾大感謝祭などは、今は実行委員会が実施するなど、立ち上げ時から徐々に変化し固まりつつあるので、実体に合わせた科目建てをしていくほうが良い。
- ・PT 長会議などの実施により、まとまり感が欲しい（PT 長会議の開催提案）。
- ・CSR-NPO 未来交流会に参加した方がその場限りでなく、つながりを日常化できるような工夫があればよいのではないか。
- ・東京湾大感謝祭の横浜実施では、他のエリア、例えば東京都、千葉県などの市民の参加意識をより高めることができるよう、祭りを盛り上げる地域が広がる工夫がほしい。

【審議経過】

- ・監事のコメントはご指摘通りである。横浜市以外の自治体からの感謝祭参加協力を是非お願いしたい。開催経費も含めて自前主義で努力しているが、東京開催、千葉開催など別々での開催となると実行委員会自体も分散して開催する余力がない。できれば、横浜に来て千葉や東京の PR などとも検討してほしい。
- ・限られた資源の中、これからの東京湾大感謝祭の在り方も検討していく必要がある。

（2）平成 28 年度事業計画、予算（案）について

【決定事項】

平成 28 年度事業計画、予算（案）については、提案の通り承認された。

（事務局説明）

<資料 2-1、2-2>

- ・資料 2-1：平成 28 年度事業計画はすでに H27d 第 4 回企画運営委員会で承認され



ている。この事業計画を実施するために、資料 2-2 に具体的な予算案を示している。

- ・事業計画は、フォーラムの活動が第二弾ロケットに移行していき、裾野の広がり、政策提案の深まりの方向を踏まえている。ポイントは、自立に向けた取り組み、量的広がりと質的高まり、PT の強化をあげている。
- ・2-2：平成 28 年度は引き続き助成金をフォーラム活動の財源として、事業計画を縮小することなく、事務局努力と運営費などの節約を行い実施していく予定。

【審議経過】

- ・フォーラム事業費の削減の中で、フォーラム総会経費（備品/消耗品費）が大幅に削減されているが心配。

（事務局説明）

- ・フォーラム総会費用の削減は、配布資料の制作外注を中止し、事務局内の手作業で対応予定。または映写スクリーンなどの活用による配布資料の削減など、さらに工夫していくことを検討していきたい。

（3）フォーラム法人化の検討について

3 年間の活動が経過しフォーラムの選択に深くかかわる。

【決定事項】

- ・フォーラム法人化の検討については、提案通り法人化検討委員会の設置が承認された。

（事務局説明）

- ・資料 3 による説明。企画運営委員会の下に法人化検討委員会を設置し、議論した内容を企画運営委員会に報告する。これまで 3 年間の活動を振り返り、フォーラムの在り方、特に法人化の検討をおこなう。
- ・切っ掛けは、セブン-イレブン記念財団からの支援を特別な配慮でいただいております、いつまでも任意団体でよいのかという疑問から。他の組織からの助成を得るためには、任意団体では助成を得にくい。またフォーラム活動の成長期を迎える時期にあたり、組織をどのように作りあげていくのかという議論整理をすることも大切である。
- ・具体的な検討、例えば、税の処理問題や総会の位置づけや企画運営委員会の機能などを含めて議論することで検討が進展すると想定できる。メンバーはまだ絞り込めていないが、資料にあるような立場の方で構成し、事務局が検討委員会の事務局機能を果たす予定。

〈議長〉

3 年間の経過して、セブン-イレブン記念財団のご厚意で、多大なご支援をいただき、さらに大感謝祭などでも、大きな金額が動いている。法人格をもたない組織であるが、結構な金額が動き始めている。今後これでよいのか。他方で法人化する場合、今まで考えていなかった問題もでてくる。

法人格をもたない組織の中間的な総括をどうするか、とあわせて今後の法人化の問題をどうするか、は深く関わる。法人化の課題をメリット、デメリット、社会的責任、組織責任などの面から委員会を立ち上げて、時間をかけて検討し



ていくという提案と理解した。

【審議経過】

議長：今後の委員会開始にあたり良い機会なので、フリーディスカッションをお願いする。

(セブン-イレブン記念財団)

- ・任意団体と法人格のある場合では、助成金の規模の違いがある。民間組織が寄付を行う場合でも、事業実施の責任においても違いがある。法人格をもっているほうが、より社会的信用が高い。継続的に活動を行っていくには法人格を検討していくことが一つの選択肢として考えられる。

《報告事項》

(1) セブン-イレブン記念財団との協定締結について

【報告】 (事務局)

資料 4 をもとに説明。第 3 条に助成金の金額を明記するなど、協定書を締結。

(2) CSR-NPO未来交流会 (マッチング交流会) について

【報告】 (事務局)

資料 5、未来交流会のチラシをもとに説明。第 2 回目となる交流会を実施できる運びとなり、経団連自然保護協議会様、セブン-イレブン記念財団様からの協力の名義を得ることができた。

(3) 東京湾イベントカレンダーについて

【報告】 (事務局)

資料 6 をもとに説明。いろいろなイベント情報があるが、東京湾に関連するイベントを一元化できる受け皿をネット上に作成。カレンダーができたというご紹介。自治体のみなさまにも情報をお寄せいただき、活用していただきたい。

議長：情報をいただく様式を事務局で用意して情報をお寄せいただければよいのではないかと。また、自分たちの自治体を超えて広がりを持つことができるので、情報を寄せていただく輪を広げたい。

事務局：フォーラムの会員や関連情報の範囲は、今は集める努力に集中している。少しでも東京湾に関連していればよく、そうした情報提供のお願いをする予定。

- ・お金になる要素で外から見た場合、カレンダーの充実は非常に重要となる。内容としては、カテゴリー分けしたほうが良い。これから海に遊びにくる外からお客様が来るような情報ツールとして育てれば、会員拡大が想定でき、HP のアクセス増加につながり、ひいては収入源に繋がる。

議長：情報整理のアイデアを事務局にお寄せください。



(4) 平成 28 年度 P T 活動状況

【報告】 (事務局)

- ・資料 7-1 は PT 全体の動きのまとめ。
東京湾大感謝祭 PT はすでに、今年も開催に向けて実行委員会が動き出している
- ・指標活用 PT は 7-2 の資料で、後ほど PT 長からの説明予定。
- ・パブリックアクセス PT は今年度政策提案をめざし、充実した議論が行われている。
- ・モニタリング PT は、一斉調査を含めて工夫。
- ・生きもの生息場づくりの PT は、政策提案を実施したのち、第二期として動き出している。すでに会合を開催。
- ・海水浴 PT は別途ご紹介があればお願いします。江戸前 PT は、前々回の会議で、官の関与の重要性をご指摘いただいた。水産庁の強いご協力もあり、PT 長の推薦をお願いしている。まだ返事はないが現在官側で調整中と聞いている。PT 長不在時に準備会合を開いている。
- ・3 月に設立された 2 つの新しい PT もメンバー確定後、会合が持たれる予定。

○ P T 活動報告 (各 P T 長)

◆パブリックアクセス P T

【報告】 (竹口 PT 長)

東京湾パブリックアクセス方策検討 PT では、今後政策提案に向けて、企画運営委員の皆様方にも意見照会などの機会があるので、ご意見等いただければありがたい。

◆東京湾大感謝祭 P T 活動

【報告】 (木村 PT 長)

東京都の感謝祭トライアル開催は、中止とする。日本財団の助成金による開催を想定していたが、熊本震災により、日本財団はそちらのほうに注力する結果となった。

◆指標活用 P T 活動

【報告】 (岡田 PT 長)

資料 7-2 に基づき説明。市民データの扱いについて推進会議と協力して進めている。

- ・ファームのメーリングリスト活用しデータ収集予定。
- ・調査シートを改良中。
- ・感謝祭にデータ結果の発表を想定しています。
- ・メーリングリストが不調な場合、東京湾再生推進会議に協力依頼 (アンケート配布先)。
- ・モニタリング PT に情報提供依頼のお願い予定。
- ・東京湾再生推進会議に行政機関の公開資料、調査報告書などの情報提供のお願い予定。
- ・江戸前 PT や生きもの生息場づくり PT へのデータ収集の協力をお願い予定。



《質問－ 1 》

・指標のデータ収集について、東京湾一斉調査もあり、協力できる。東京湾における活動を河口部第一橋までとしている理由はなにか。この条件は外せないのか。

PT 長： 水遊びや環境学習の収集データ範囲は、PT 内で議論し東京湾におけるという議論の結果。沿岸域・海で限定した。ゴミは流域圏からも入ってくるので、海のゴミと限定しないで、東京湾に流入する河川も対象としている。

・水辺の環境学習など第一橋の内側での実施場合もある。東京湾再生推進会議の分科会で集計しているイベントや環境学習は、そうした内水部のものもカウントしているがどうしますか。

PT 長： 個別はその時に調整させていただきたい。

議長： PT でもう一度ご意見を議論し、再度検討されご判断していく方向でお願いする。

・リストアップしたデータ、海に関係するデータは提供するので、判断は、指標活用 PT で行うということに了解する。

《質問－ 2 》

・UMI 協議会などの調査協力アンケートを依頼してもよいか。海辺のスポーツなど範囲は多種多様だが、その対象範囲はどうなるのか。

PT 長： 主催者がいてイベントを開いているのがアンケート対象になる。

(5) その他

【報告】（事務局）

・アサリわくわく調査の実施の案内説明。事前申し込みが必要。開催は 6 月 5 日。

■全体通しての質疑・応答、意見

・フォーラムで様々な意見を吸い上げる官と民と一緒に議論できることはすばらしい。一方、官側の集合になる関西自然保護連合（府県集合・琵琶湖の再生）などは、参考になる意見もあるので閉鎖性海域を扱う点で共通しており情報収集するとよい。

今年は国際会議・9 月 IUCN（世界自然保護連合）の総会がハワイである。チャンスがあればそこでの情報発信もありえる。

12 月生物多様性の保護条約の会議 COP13 メキシコがある。参加はできないが、そこからの情報収集などや自分たちの進展具合などを把握するためにも広く情報を集めながら進んでいけたらと思う。

（事務局としては、関連する組織・団体の議論や動向についても注目しながら、フォーラムとしての活動を考えて行くこととしたい。）

事務局：

「東京湾再生アンバサダー 榎アナウンサー様からの依頼」



ZIP！・番組で海の日になんだクイズ形式の番組内容を一部行いたいので、東京湾にまつわる“今昔ネタ”の情報提供依頼があった。写真など事務局まで情報提供をお願いしたい。

以上